



香川県の観音寺・三豊地区実行委員会主催で「大軍拡・金権政治に反対し、消費税減税・インボイス廃止を求め、憲法に基づく税制・税務行政の確立のため全納

白川よう子参院比例候補が招かれ来賓あいさつをしました。白川氏は「春闘で大企業には満額回答が続いているが、物価高騰に賃上げが追いつかず、中小企業には支援がなく、最低賃金の引き上げが押しつけられ、国民は苦しんでいる。一方、

税者が声をあげよう」と重税反対全国統一行動が行われ、約200人が会場内外に集まりました。

県商工団体連合会の田川孝治副会長があいさつし、「国会で自公が少数与党となり、国民の要求が通りやすい情勢だ」と強調。「数は力で、納税者を守る民商を大きくしよう」と呼びかけました。

白川よう子参院比例候補が招かれ来賓あいさつをしました。白川氏は「春闘で大企業には満額回答が続いているが、物価高騰に賃上げが追いつかず、中小企業には支援がなく、最低賃金の引き上げが押しつけられ、国民は苦しんでいる。一方、

税者が声をあげよう」と重税反対全国統一行動が行われ、約200人が会場内外に集まりました。

県商工団体連合会の田川孝治副会長があいさつし、「国会で自公が少数与党となり、国民の要求が通りやすい情勢だ」と強調。「数は力で、納税者を守る民商を大きくしよう」と呼びかけました。

原発をなくす香川の会の細川浩志事務局長は伊方原発の運転差し止めを認めなかった5日の広島地裁判決について「危険性があると

原発をなくす香川の会の細川浩志事務局長は伊方原発の運転差し止めを認めなかった5日の広島地裁判決について「危険性があると

香川からは遠く時間がかかるが、訪れてほしい。(C)

香川からは遠く時間がかかるが、訪れてほしい。(C)

香川からは遠く時間がかかるが、訪れてほしい。(C)

3・13重税反対 観音寺・三豊地区集会



定価 月100円
発行所
民主香川社
高松市藤塚町
3丁目13-14
☎(087)834-7311



自民党は裏金を脱税。大企業・富裕層には大減税し、内部留保が貯まっている」と指摘。「大軍拡でなく、いのちや暮らしに予算を。大企業・富裕層への減税でなく、中小企業への支援と商売への予算をと声をあげ政治を変えていきましよう」と呼びかけました。

集会后、参加者は税務署に集団申告をしました。

大松台

長野県上田市にある無言館(戦没画学生慰霊美術館)は、作家の窪島誠一郎さんと自らも出征経験のある画家の野見山曉治さんが、全国の戦没画学生の遺族を訪問して、遺作を収

日本被団協のノーベル平和賞を祝う集い

使われると人類が終わる。被爆から80年。核兵器はなくすべきだと訴え、NPO法人ルワンダの教育を考える会の永遠堀マリールイス理事長、作曲家の三木柚穂氏もあいさつ

日本被団協のノーベル平和賞受賞を祝う集い(同実行委員会主催)が開かれ、約100人が参加しました。実行委員長の西川清・善通寺にしかわクリニック院長は、「世界から核の脅威は去っていない。日本被団協がノーベル平和賞を受賞したが、運動を次世代に引き継いでいかなくてはいけない」とのべました。

香川県原爆被害者の会前会長でジャズピアニストの好井敏彦氏が講演し「人類は愚かだ。核兵器は、相手と同じく自分も持ち、製造されるライフルと同じ。毎年どれだけの軍事費が使われるのか」と語りました。好井氏はピアノを演奏し、「遠くへ行きたい」「100万本のバラ」などを披露しました。

民主香川 発行日のお知らせ

しんぶん赤旗日曜版は、3月9日と16日が合併号でした。よって民主香川の3月の発行日は、第1週目が2日、第3週目が9日、4週目が30日の発行に変更となっています。

《お詫び》

2025年3月9日の第2019号の4面の「讃岐の文学碑めぐり」のタイトルが「日治安維持法施行から百年」となっており「日」の字が誤って加えられていました。正しくは「治安維持法施行から百年」です。編集部の誤記をお詫びし、訂正します。

※境内の大蘇鉄(そてつ)は朝鮮出兵の際に生駒親正が持ち帰ったものと伝えられる。

※元徳2年(1330) 铸造の小ぶりの銅鐘は生駒親正が文禄の役(1592)で陣鐘として朝鮮に持参し、帰国後法泉寺に寄進したと伝えられる。老朽化のため平成25年(2013)に鐘楼とともに撤去。

郷土辞典「笠居郷探訪」(一部抜粋) 25
法泉寺 (ほうせんじ)
著者 立山 信浩

※昭和27年(1952)、高松市の都市計画実施により寺の東の電車道路がなくなり、寺域の西側に新たな道路が施設された。これにより寺域が道路幅だけ東に移動。焼け残った山門は南向きに移転。大釈迦像は約70m東に移動し、西向きに向きを変えて立て直された。総重量440トンの釈迦像を立ったままで台座ごと動かす大工事であった。昭和

し、明治44年(1911) 10月心寺派に属する禅宗寺院。本尊釈迦如来。寺紋は生駒氏の家紋と同じ源氏車。もとは宇多津の海蔵寺。生駒親正が志度から宇多津に移した海蔵寺を、慶長3年(1598)に生駒一正が高松三番丁に移して法泉寺と寺号を変え、弘憲寺とともに生駒家の菩提寺とした。

龍松山法泉寺。臨済宗京都妙心寺派に属する禅宗寺院。本尊釈迦如来。寺紋は生駒氏の家紋と同じ源氏車。もとは宇多津の海蔵寺。生駒親正が志度から宇多津に移した海蔵寺を、慶長3年(1598)に生駒一正が高松三番丁に移して法泉寺と寺号を変え、弘憲寺とともに生駒家の菩提寺とした。



大釈迦像と忠魂碑

「法泉寺の大釈迦像も戦時中は金属絶対不足のあおりで政府への供出を命じられた。寺は仏教会が建造したもの故、寺の一存で決めかねると抵抗するも拒否できず、せめて頭部だけは保存したいので、胴体を切断して持って行って欲しいと申し出るや、そのまま沙汰やみになったという。」(『戦跡を歩く 香川県』)

28年(1953) 4月8日開眼供養。

「法泉寺の大釈迦像も戦時中は金属絶対不足のあおりで政府への供出を命じられた。寺は仏教会が建造したもの故、寺の一存で決めかねると抵抗するも拒否できず、せめて頭部だけは保存したいので、胴体を切断して持って行って欲しいと申し出るや、そのまま沙汰やみになったという。」(『戦跡を歩く 香川県』)

「法泉寺の大釈迦像も戦時中は金属絶対不足のあおりで政府への供出を命じられた。寺は仏教会が建造したもの故、寺の一存で決めかねると抵抗するも拒否できず、せめて頭部だけは保存したいので、胴体を切断して持って行って欲しいと申し出るや、そのまま沙汰やみになったという。」(『戦跡を歩く 香川県』)

「法泉寺の大釈迦像も戦時中は金属絶対不足のあおりで政府への供出を命じられた。寺は仏教会が建造したもの故、寺の一存で決めかねると抵抗するも拒否できず、せめて頭部だけは保存したいので、胴体を切断して持って行って欲しいと申し出るや、そのまま沙汰やみになったという。」(『戦跡を歩く 香川県』)

「法泉寺の大釈迦像も戦時中は金属絶対不足のあおりで政府への供出を命じられた。寺は仏教会が建造したもの故、寺の一存で決めかねると抵抗するも拒否できず、せめて頭部だけは保存したいので、胴体を切断して持って行って欲しいと申し出るや、そのまま沙汰やみになったという。」(『戦跡を歩く 香川県』)

「法泉寺の大釈迦像も戦時中は金属絶対不足のあおりで政府への供出を命じられた。寺は仏教会が建造したもの故、寺の一存で決めかねると抵抗するも拒否できず、せめて頭部だけは保存したいので、胴体を切断して持って行って欲しいと申し出るや、そのまま沙汰やみになったという。」(『戦跡を歩く 香川県』)

「法泉寺の大釈迦像も戦時中は金属絶対不足のあおりで政府への供出を命じられた。寺は仏教会が建造したもの故、寺の一存で決めかねると抵抗するも拒否できず、せめて頭部だけは保存したいので、胴体を切断して持って行って欲しいと申し出るや、そのまま沙汰やみになったという。」(『戦跡を歩く 香川県』)

「法泉寺の大釈迦像も戦時中は金属絶対不足のあおりで政府への供出を命じられた。寺は仏教会が建造したもの故、寺の一存で決めかねると抵抗するも拒否できず、せめて頭部だけは保存したいので、胴体を切断して持って行って欲しいと申し出るや、そのまま沙汰やみになったという。」(『戦跡を歩く 香川県』)

「法泉寺の大釈迦像も戦時中は金属絶対不足のあおりで政府への供出を命じられた。寺は仏教会が建造したもの故、寺の一存で決めかねると抵抗するも拒否できず、せめて頭部だけは保存したいので、胴体を切断して持って行って欲しいと申し出るや、そのまま沙汰やみになったという。」(『戦跡を歩く 香川県』)

「法泉寺の大釈迦像も戦時中は金属絶対不足のあおりで政府への供出を命じられた。寺は仏教会が建造したもの故、寺の一存で決めかねると抵抗するも拒否できず、せめて頭部だけは保存したいので、胴体を切断して持って行って欲しいと申し出るや、そのまま沙汰やみになったという。」(『戦跡を歩く 香川県』)

「法泉寺の大釈迦像も戦時中は金属絶対不足のあおりで政府への供出を命じられた。寺は仏教会が建造したもの故、寺の一存で決めかねると抵抗するも拒否できず、せめて頭部だけは保存したいので、胴体を切断して持って行って欲しいと申し出るや、そのまま沙汰やみになったという。」(『戦跡を歩く 香川県』)

「法泉寺の大釈迦像も戦時中は金属絶対不足のあおりで政府への供出を命じられた。寺は仏教会が建造したもの故、寺の一存で決めかねると抵抗するも拒否できず、せめて頭部だけは保存したいので、胴体を切断して持って行って欲しいと申し出るや、そのまま沙汰やみになったという。」(『戦跡を歩く 香川県』)

「法泉寺の大釈迦像も戦時中は金属絶対不足のあおりで政府への供出を命じられた。寺は仏教会が建造したもの故、寺の一存で決めかねると抵抗するも拒否できず、せめて頭部だけは保存したいので、胴体を切断して持って行って欲しいと申し出るや、そのまま沙汰やみになったという。」(『戦跡を歩く 香川県』)

「法泉寺の大釈迦像も戦時中は金属絶対不足のあおりで政府への供出を命じられた。寺は仏教会が建造したもの故、寺の一存で決めかねると抵抗するも拒否できず、せめて頭部だけは保存したいので、胴体を切断して持って行って欲しいと申し出るや、そのまま沙汰やみになったという。」(『戦跡を歩く 香川県』)

「法泉寺の大釈迦像も戦時中は金属絶対不足のあおりで政府への供出を命じられた。寺は仏教会が建造したもの故、寺の一存で決めかねると抵抗するも拒否できず、せめて頭部だけは保存したいので、胴体を切断して持って行って欲しいと申し出るや、そのまま沙汰やみになったという。」(『戦跡を歩く 香川県』)

「法泉寺の大釈迦像も戦時中は金属絶対不足のあおりで政府への供出を命じられた。寺は仏教会が建造したもの故、寺の一存で決めかねると抵抗するも拒否できず、せめて頭部だけは保存したいので、胴体を切断して持って行って欲しいと申し出るや、そのまま沙汰やみになったという。」(『戦跡を歩く 香川県』)

「法泉寺の大釈迦像も戦時中は金属絶対不足のあおりで政府への供出を命じられた。寺は仏教会が建造したもの故、寺の一存で決めかねると抵抗するも拒否できず、せめて頭部だけは保存したいので、胴体を切断して持って行って欲しいと申し出るや、そのまま沙汰やみになったという。」(『戦跡を歩く 香川県』)

「法泉寺の大釈迦像も戦時中は金属絶対不足のあおりで政府への供出を命じられた。寺は仏教会が建造したもの故、寺の一存で決めかねると抵抗するも拒否できず、せめて頭部だけは保存したいので、胴体を切断して持って行って欲しいと申し出るや、そのまま沙汰やみになったという。」(『戦跡を歩く 香川県』)

「法泉寺の大釈迦像も戦時中は金属絶対不足のあおりで政府への供出を命じられた。寺は仏教会が建造したもの故、寺の一存で決めかねると抵抗するも拒否できず、せめて頭部だけは保存したいので、胴体を切断して持って行って欲しいと申し出るや、そのまま沙汰やみになったという。」(『戦跡を歩く 香川県』)

「法泉寺の大釈迦像も戦時中は金属絶対不足のあおりで政府への供出を命じられた。寺は仏教会が建造したもの故、寺の一存で決めかねると抵抗するも拒否できず、せめて頭部だけは保存したいので、胴体を切断して持って行って欲しいと申し出るや、そのまま沙汰やみになったという。」(『戦跡を歩く 香川県』)

「法泉寺の大釈迦像も戦時中は金属絶対不足のあおりで政府への供出を命じられた。寺は仏教会が建造したもの故、寺の一存で決めかねると抵抗するも拒否できず、せめて頭部だけは保存したいので、胴体を切断して持って行って欲しいと申し出るや、そのまま沙汰やみになったという。」(『戦跡を歩く 香川県』)

「法泉寺の大釈迦像も戦時中は金属絶対不足のあおりで政府への供出を命じられた。寺は仏教会が建造したもの故、寺の一存で決めかねると抵抗するも拒否できず、せめて頭部だけは保存したいので、胴体を切断して持って行って欲しいと申し出るや、そのまま沙汰やみになったという。」(『戦跡を歩く 香川県』)

「法泉寺の大釈迦像も戦時中は金属絶対不足のあおりで政府への供出を命じられた。寺は仏教会が建造したもの故、寺の一存で決めかねると抵抗するも拒否できず、せめて頭部だけは保存したいので、胴体を切断して持って行って欲しいと申し出るや、そのまま沙汰やみになったという。」(『戦跡を歩く 香川県』)

「法泉寺の大釈迦像も戦時中は金属絶対不足のあおりで政府への供出を命じられた。寺は仏教会が建造したもの故、寺の一存で決めかねると抵抗するも拒否できず、せめて頭部だけは保存したいので、胴体を切断して持って行って欲しいと申し出るや、そのまま沙汰やみになったという。」(『戦跡を歩く 香川県』)

「法泉寺の大釈迦像も戦時中は金属絶対不足のあおりで政府への供出を命じられた。寺は仏教会が建造したもの故、寺の一存で決めかねると抵抗するも拒否できず、せめて頭部だけは保存したいので、胴体を切断して持って行って欲しいと申し出るや、そのまま沙汰やみになったという。」(『戦跡を歩く 香川県』)

「法泉寺の大釈迦像も戦時中は金属絶対不足のあおりで政府への供出を命じられた。寺は仏教会が建造したもの故、寺の一存で決めかねると抵抗するも拒否できず、せめて頭部だけは保存したいので、胴体を切断して持って行って欲しいと申し出るや、そのまま沙汰やみになったという。」(『戦跡を歩く 香川県』)

「法泉寺の大釈迦像も戦時中は金属絶対不足のあおりで政府への供出を命じられた。寺は仏教会が建造したもの故、寺の一存で決めかねると抵抗するも拒否できず、せめて頭部だけは保存したいので、胴体を切断して持って行って欲しいと申し出るや、そのまま沙汰やみになったという。」(『戦跡を歩く 香川県』)